

平成28年度福井県立三国高等学校 学校評価書

平成29年2月

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
教育課程 学習指導 研修	家庭学習時間が増えるように、課題の提示や宿題の提出方法について、工夫・徹底する。	「課題や宿題の提出方法を工夫し、提出状況のチェックを徹底している」に対して、AまたはBと答えた教職員は100%となった。昨年同様、目標指数の90%を超えた。また、各教科が積極的に課題を出し、提出の徹底を図り、学年会等も課題提出を徹底するために協力をしている。しかし、生徒の家庭学習等の時間の指数は、昨年同様目標指数には達しなかった。多くの教科が生徒に基礎力やより高い学力を付けさせるために定期的に課題を提出させているが、十分に生徒の学習意欲に繋がらず、自主的な取り組みになっていないために、単に答えを写して提出したり、十分に時間をかけていない生徒がいる。	学習時間を増やすだけではなく、個々の生徒の学力にあった課題を与え、もっと身近な目標を持たせるなどの動機付けを図っていく必要がある。
	授業時間を確保し、わかりやすく、関心・意欲を高める授業を目指す。	わかりやすい授業のための教材研究の指数は、100%で目標指数の90%に達した。 「チャイムと同時に授業を始め、終わることができたか」については、目標指数の95%で本年度は目標の100%に達しなかった。 生徒の授業の準備については、92%で目標指数の70%に達した。 生徒の授業の理解度については、83%で目標指数の70%に達した。	成績上位の生徒の関心・意欲を更に高めつつ、最近基礎力が十分についていない生徒が増加していることを考慮に入れながら、授業をあまり理解していない生徒への働きかけを工夫していかなければならない。そのため、ICT機器の利用やアクティブラーニング型の授業をさらに増やしていきたい。
生徒指導	遅刻数の減少を目指して、個人・クラス毎の集計を行い、過多者への指導を行う。	不注意による遅刻数が、前年比約25%の減となり、各学期5回以上になる生徒も減った。今後は、各学期5回以上になる生徒がいなくなるよう指導を継続していきたい。	学年会と指導部との協力体制による遅刻防止指導を継続し、「時間を守ることの大切さ」を再認識させたい。
	きちんとした服装・素直な気持ちで学校生活を送れることを目指し、日々の「服装指導」に取り組んでいく。	生徒の95%が、正しい服装で学校生活を送れたと答えしており、校内における生徒たちの服装は良好であると言える。校外においても高校生らしい服装ができるよう指導していきたい。 また、教職員の取組指標が目標を若干下回っているため、教職員の意識がこのまま下降していかないようにしていく必要がある。	生徒たちには、教員の目の届かない場所でも、自らを律し、望ましい行動がとれるよう呼びかけていきたい。また、教員にも、必要に応じて服装指導を要請していきたい。
進路指導	勤労観・職業観の育成を図り、できるだけ早く自分の志望する進路を決定してそれが実現できるように、企画の実施や情報の提供に努める。	「進路決定に役立つ企画・情報の量・回数が適切」と答えた教職員の指数は85.4%、および「進路指導が生徒の興味関心にあわせて行われている」と答えた保護者の指数は88.5%であり、いずれも目標指数を上回っている。今後も教職員や保護者にも十分な情報が届くように取り組みたい。 「進路目標を持つ」と答えた生徒の指数は今年度も全学年で目標を達成した。3年間の系統立てたキャリア教育を推進し、今後とも進路学習を通してキャリア教育のさらなる充実を図ってきたい。	生徒の進路意識を高めるための本校の系統的プログラム「3年間のキャリア教育の流れ」に沿って、進路学習を進めていく。 今後も総合的な学習の時間等を活用したキャリア教育の取り組みを、教務部・学年会と連携し推進したい。
	模擬試験などを教科毎に分析しながら、朝補習・土曜補習・長期休業中の補習・個別指導等を活用して学力の向上を図る。	「補習で効果的な指導ができた」と答えた教職員は93.3%、「補習の内容や量に満足している」と答えた保護者の指数は85.9%であり、いずれも目標指数を達成している。「補習により学習に対する理解が深まった」と答えた生徒の指数も83.2%に達し目標指数を上回っている。 大学入試対策としての補習の充実を図ることと、基礎学力が不足している生徒に対する個別指導の改善が今後の課題である。	生徒の実態を踏まえながら、生徒が意欲的に取り組むことができる補習の指導内容を検討していく。また、来年度より2、3年特進クラスの春休み補習を実施する。 1、2年次には模擬試験を利用した基礎学力診断を行い、個別指導に活用していきたい。
保健管理	日常の清掃活動をはじめとして校内の環境美化につとめる。	教職員・生徒・保護者ともに目標を達成できた。長期休業中の補習実施日の清掃を行ったことが清掃意識の向上につながったと考える。	今後も清掃時間だけに限らず、学校生活全体を通じて美化意識を持つよう意識付けを行いたい。美化週間を有効に活用する。古紙段ボール資源の活用分別を推進する。
	心身の健康状態を観察し、適切な保健指導を行う。	教職員・生徒・保護者ともに目標を達成できた。健康に対して、生徒本人および保護者の意識をさらに高めることが今後の課題となる。	健康についての保護者の意識の向上を目指す。保護者懇談会の際に、配布物や保健室面談などで健康について考える機会を増やす。
保護者との 連携	生徒および保護者に愛読されるような通信内容にすべく記事の充実を図る。	「PTA通信の充実」について教職員、保護者ともそれぞれ目標指数を達成した。総務委員会での編集作業も保護者役員の熱心な活動のもと、充実したものになっており、県内の広報紙コンクールでは優秀賞を受賞した。	PTA通信の内容の満足度を上げるよう、内容においてもより充実させたり新企画を設けるなど、さらに努力していきたい。
	正しい職業観の育成のために1、2年生対象に職業探求講座を実施する。	「講座が充実していた」とする教職員、「職業に対する理解が深まった」とする生徒、「講座を機会に子供と進路に関する会話を持てた」とする保護者がそれぞれ目標指数を達成した。	来年度に向けて、今年度同様、教職員・保護者・同窓会の連携を更に密にしていきたい。

図書視聴覚 指導	新刊・話題作・学習活動や 進路研究に寄与する図書を 精選し、配架する。	新着図書の情報・リクエスト機会については教職員・生徒・保護者共にほぼ前年度並みで目標指数を達成した。図書館の利用頻度については、LHや授業でしか利用しなかった割合が増加している。満足度は目標を充たしているため、来館者にまた利用したいという実感をもたせる工夫が必要である。	生徒指導部LH担当者、生徒LH委員、図書委員の協力を得て図書館からの情報発信を更に充実していきたい。
	読書意欲を喚起し、読書体験を重ねていけるような取り組みを展開する。	読書タイムが有効であったと答えている割合が多い。読書の回数が増加傾向にある生徒もいるので、読書習慣の一層の定着を目指していきたい。	読書タイムでの朝読書が、継続的な読書習慣の定着につながるように、来年度は3学期の読書タイムの導入を検討したい。
	共有化されたデータやグループウェアを活用し、校務の軽減を図る。 総合学習やLHでインターネットを利用するにあたり、情報モラルの遵守を促す。	校内LANの活用に関しては、目標指数を十分に満たす回答を得た。今後も継続して取り組みたい。情報モラルについては、生徒の目標指数は達成したが、情報モラルの遵守を促す取り組みは、今後も継続的な努力を積み重ねる必要がある。	校内LANの運用を一層促進し会議の省力化を目指したい。情報モラルの遵守を促す取り組みは、今後も継続的な努力を積み重ねたい。
人権教育	あらゆる教育活動の中で人権教育の観点を取り入れる。	教職員の人権尊重の姿勢については、目標とする100%に達した。引き続き、体罰等に関する正しい知識・理解も含め、更にも人権意識の高揚に努めていく。生徒の意識、保護者から見た生徒の人権に対する意識については、いずれも目標指数を達成したが、保護者が生徒に対して感じる評価は生徒自身の評価よりもやや低かった。	教職員に対しては、伝達講習などを通じて人権意識を高めていきたい。生徒自身は他者を尊重しているつもりでも、保護者はそう感じていないケースが考えられるので、集会・LH・SHなどあらゆる機会を通して、他者に配慮するように呼びかけていきたい。
経営全般	各種学校行事の実施において、校務部間、学年間の連絡を密にし、協力体制の下で実施する。	アンケートの結果では、目標指数を下回り、各種学校行事の実施において校務分掌間の協力体制が十分でなかった。その要因を探り、多忙化の解消ならびに教職員の不公平感を是正する必要がある。	各校務部・各学年主任間の意思疎通を十分に図り、各分掌内や職員会議等において教職員の協力体制を確認し、徹底するよう呼びかける。